

## 2021（R3）年度「学校評価」

学校法人三位一体会 暁の星幼稚園

**目的**・より良い幼稚園教育を目指して、運営状況を評価し、園運営の改善を図る。

- ・評価結果等を広く保護者等に公表し、理解、協力のもと連携を深め、地域に愛される幼稚園として理想に向かって、施設、環境、教育内容の充実、及び教職員の資質向上に努める。

2021年度に実施した学校評価の結果を受け止めて、2022年度の改善に努めてきた実践を振り返り、課題を明らかにして今後の取り組みに活かし、教職員の資質向上に努めていく。

### **教育理念**

#### 暁の星幼稚園は

**「いつも喜んでいなさい 絶えず祈りなさい どんなことにも感謝しなさい」**

**これこそキリスト・イエスにおいて神があなたがたに望んでおられることです**

**(テサロニケの信徒への手紙1 5：16～18)**

**この聖パウロの勧めを日々生きていくことをめざし**

**キリスト教カトリックの精神に基づいて**

**個性を尊重し、個性に応じた環境を与え、発達を助け、家庭教育を補い、  
社会のよき一員となるよう教育を行う。**

- ・神を身近に感じながら、祈る心と自分や周囲の人、周りのものすべて（家族、友達、神様の愛、言葉や文化等）を大切にすることを育みます。
- ・命の尊さ、自然の不思議さ、美しさ、神様の愛、人の優しさに気づき、感謝し、平和を祈る心を育てます。
- ・おしごと、体操、絵の部屋、木工教室など全てに共通してモンテッソーリ教育の“選び”を大切に、自ら発見できる楽しさと、出来るまでやり遂げようとする強い心を培い、自立へ導きます。
- ・縦割りクラスの中で、見習うこと、待つこと、赦し合うこと、人のために奉仕すること、共に喜ぶことなどを学び、思いやりや社会性の基礎を培います。
- ・「ありがとう」「ごめんね」言葉で自分の思いを伝え、相手の思いに気づき、喜びや、悲しみを共感できる心を育てます。
- ・先生や友達と共に過ごす喜びの中で、みんなと仲良くして、心身の健やかな成長を目指します。

## 2021年度の重点目標と教職員の具体的な取り組み

### 重点目標「発信し合う、気づき合う、育ち合う」

#### 具体的な取り組み

##### 1, コロナ禍における保育実践上の工夫

- ・一斉メールを導入し、すぐに保護者に連絡できる体制を整えた。
- ・分散で給食を行うだけでなく、パーテーションを設置したり、一つの机に一人で座るようにしたり、更なる感染防止対策を行った。
- ・昨年度と同様、保護者の方になかなか園の様子、子どもの様子を直に見て頂くことが難しい分、HPの情報をこまめに更新したり、園だよりや、園長のつぶやきなどのお便りで子どもたちの様子を知らせたり、積極的に発信するよう心がけた。

##### 2, 実習園として、お仕事の提供法や環境を見直す

2021年度から、暁の星幼稚園がモンテッソーリ教師を目指す先生方が実習を行う実習園となった。そのため、もう一度職員全員で環境を整え（子どもたちが使いたくなるような教具であるか見直し、新しいものに作り替えるなど）、それぞれが子どもたち、実習に来られる先生方のため、自分のために改めて提供法を確認した。実習生を迎えたことで、職員の意識も高まり、結果子どもたちに対しても今まで以上におしごとを通して深く関わる事が出来るようになったと感じている。

##### 3, 職員が働きやすい職場にするために改善できる点を考え、実践に移す

昨年の学校評価委員会で問題提起して頂いた「職員の退勤時間」について、職員全員で話し合いを行い、16時から終礼、終わり次第解散（退勤しても良い、残りたい人は残っても良い）とした。また、お預かり保育の担当を曜日ごとに決めることで、担当の日以外は早く帰りやすい雰囲気作りを目指した。  
引き続き、より職員が働きやすい環境にするためには何を変えていくべきかを考えていきたい。

#### 4, 2021年度の自己評価の視点

第1部 今年度のねらい「発信し合う、気づき合う、育ち合う」について以下6点、  
また具体的な取り組みの「職員の退勤時間について」以下2点の評価項目で実施した。

Q1. あなたはいつもねらいを心がけて日々を送りましたか。

1, はい、いつも 2, 大体いつも 3, 時々思っていた 4, 全く忘れていた

Q2. Q1で1、2と回答した方は、ねらいを心がけた結果どうでしたか。

1, 達成できた 2, 大体達成できた 3, 努力はしてみた 4, 出来なかった

Q3. 自分から発信することができましたか。

1, できた 2, 大体できた 3, 努力はした 4, 難しかった

Q4. 自分から気づくことはできましたか。また、気づこうとしましたか。

1, 出来た 2, 大体できた 3, 努力はした 4, 難しかった

Q5. 相手が発信したこと、気づいたことを受け止め、育ち合うことはできましたか。

1, 出来た 2, 大体できた 3, 努力した 4, 難しかった

Q6. このねらいを通して感じたことを、自由に書いてください。

Q7. 改善した点…退勤時間について

「終礼を16時からと決め、終わり次第、一度退勤時間（残りたい人は残って引き続き仕事をする）として解散する」とした結果どうでしたか。

1, 良かった 2, まあまあ良かった 3, あまり変化がない 4, 全く変化がない

Q8. 一年を通して感じたことを自由に書いてください。

第2部 昨年と同じ項目の自己評価を主幹教諭が代表して行い改善の状況を確認した。

( P10～)

令和3年度 学校評価職員アンケート

<令和3年度ねらい：発信し合う、気づき合う、育ち合う>

回答者 職員14名

Q1. あなたはいつもねらいを心がけて日々を送りましたか。

- |            |   |
|------------|---|
| 1, はい、いつも  | 2 |
| 2, 大体いつも   | 4 |
| 3, 時々思っていた | 8 |
| 4, 全く忘れていた | 0 |

Q2. Q1で1、2と回答した方は、ねらいを心がけた結果どうでしたか。

- |            |   |
|------------|---|
| 1, 達成できた   | 0 |
| 2, 大体達成できた | 5 |
| 3, 努力はしてみた | 4 |
| 4, 出来なかった  | 0 |

Q3. 自分から発信することができましたか。

- |          |   |
|----------|---|
| 1, できた   | 0 |
| 2, 大体できた | 5 |
| 3, 努力はした | 8 |
| 4, 難しかった | 0 |

Q4. 自分から気づくことはできましたか。また、気づこうとしましたか。

- |          |   |
|----------|---|
| 1, 出来た   | 0 |
| 2, 大体できた | 7 |
| 3, 努力はした | 6 |
| 4, 難しかった | 0 |

Q5. 相手が発信したこと、気づいたことを受け止め、育ち合うことはできましたか。

- |          |    |
|----------|----|
| 1, 出来た   | 0  |
| 2, 大体できた | 11 |
| 3, 努力した  | 3  |
| 4, 難しかった | 0  |

Q6. このねらいを通して感じたことを、自由に書いてください。

- ・話し合いの時にたくさんの意見がでて、良かった。  
いろいろな意見がでて、みんなで考える時間が昨年より多かった。  
みんなで声をかけ合えて良かった。
- ・自分が1年目ということもあり、周りを見ながら動くことが多かったため、それが気づきにつながったと思う。発信は少し難しかった。
- ・時間に追われ、ゆっくり先生方と話すことがない日もあったが、気づいたことを伝えられる環境、雰囲気を受け止めてもらえるので、このねらいは良かったと思うし、先生方もできていたと思う。
- ・“受け止める”ことを意識するようにしました。
- ・よりよくするためにする気持ちを強く感じた。
- ・子どものことを一番に考えた発信や気づきだったと思う。
- ・何でも発信することで、職員みんなが気づくことができると感じた。
- ・全職員で“～し合う”心をひとつにして子どもたちのことを守ることが出来たように感じました。自分自身ねらいを頭に浮かべて日々を送っていなかったことに反省です。
- ・気づいたことを発信していくことはとても大切だと思うので、一人で考えるのではなく、どんな小さなことでも発信できる環境が作れるといいと思った。  
発信したこと、発信されたことはまず受け止め、そこから園にとって、子どもたちにとっていい環境をみんなで一緒に考えていけるといいと感じた。
- ・コロナ禍で例年通りのま行事や活動が難しい分、特に職員で見直し、話し合う機会も多く互いに発信と気づくことはとても大切に感じられた。そしてまだ終息の見通しが立ちにくい状況の中、経験、実行してみたことを経て育ち合うことで新たな発見や気づきがあり、反省を次はこうしてみようと改善につながる。新年度では子どもたちにとってより良いものになっていくと思うため良かった。ただまだまだ不安定な状態だからこそ新しいねらいを決めても継続しつなげていくことも大切だと感じる。
- ・子どものことを終礼で発信し、共有することはできていたのではないかと思う。それぞれのクラスの教師で密に連絡を取り合っている姿がたくさんあったように思う。しかし、職員間はまだ年長者は色々な会議や話し合いで自分の思ったことを発信できるが、若い先生たちは言いにくいのだろうと感じる。個人的には色々な物事に対して一人ひとりの先生がどう思っているのか知りたいから、そこを年長者がリードして若い先生も自分の考えが言える環境を作りたい。

- ・コロナの感染防止対策や、行事の変更についてはそれぞれが自分の意見を発信し合い、また受け止め合い、“暁の星幼稚園として子どものためにどうするか”考えることができたと思う。しかし、話し合いや自分の思いを言う場面になると若い先生たちはまだまだ発言し辛そうに感じる（上の先生たちは徐々に自分の思いを話してくれる機会が増え、嬉しく思っている）。上下関係なく誰でも思ったことを言えるのが理想ではあるが、どうしても難しい部分がある。私は大勢がいる場で自分の思いを言うことだけが発信だとは思わない。今年はコロナの問題で難しかったのもあると思うが、やはり園長先生（園長先生が忙しい場合はそれに代わる先生）と1対1で話をする時間は定期的に作るべきだと感じる。若い先生がみんなの前では言えない思いを発信する場を持ち、上の先生だけでなく若い先生がどう思っているかを知っておくことは大切なことだと思う。
- ・職員間も発信し合うこと、それを受け入れることを努力しました。保護者に対して話をする機会もコロナ禍で出来ず、暁の星は子どもたちの命、家庭の事を考えて早め早めに対応したことを、他の園はしていないのに…との意見も聞いたり、預かりはしているのに…との意見等があった。もう少しわかりやすく理由を発信すべきだったと反省している。

Q7. 改善した点…退勤時間について

「終礼を16時からと決め、終わり次第、一度退勤時間（残りたい人は残って引き続き仕事をする）として解散する」とした結果どうでしたか。

- |             |   |
|-------------|---|
| 1, 良かった     | 5 |
| 2, まあまあ良かった | 2 |
| 3, あまり変化がない | 4 |
| 4, 全く変化がない  | 0 |

Q8, 一年を通して感じたことを自由に書いてください。

- ・昨年に比べて、退勤時間がとても早くなった。引き続き、続けていけたらいいと思う。
- ・コースに通いながらの1年でした。コースも幼稚園行事もコロナの影響で中止になることが多く、思うように動けないことも多かったです。そんな中でも、子どもたちと過ごす中で、子どもたちの前向きな考え方、捉え方に励まされた1年だったと感じます。コースでの勉強も、モンテッソーリについて深く学び、驚きや発見がたくさんありました。来年度も子ども一人ひとりと向き合っていけるように頑張りたいです。
- ・終礼の後、休憩をもらえたり、掃除も手伝ってもらえて、預かりの仕事の帰りの時間は早くなって助かりました。
- ・この1年間、コロナ禍の中、先生方は子どもたちのためにできることを努力してこられ、預かりもやってこれたと思っています。
- ・コロナの感染拡大により、行事だけでなく日常の園生活も対策を考えながらの毎日を送った1年でした。マスクをしての生活の中で子どもとの関わりを通して感じる様子・変化を職員間でねらいを心の中に入れて過ごすことは自分にとってとても大切なことでした。

ゆっくりと分かち合うことが難しくても、時間を見つけてその時に話すことで、時間の大切さも感じました。
- ・今回の年間のねらい・改善点も含め、職員一人ひとりが意識をしてみんなで“良い職場づくり”をすることができていたと思う。

引き続き、今回のねらい・改善点を意識していきたいと思う。

- ・4年目は3年間で学び、いただいた資格を土台とし活かせるよう意識をして過ごしました。この1年は初めて体操を主でさせていただき、たくさん実践することができました。

先生方の優しさ、あたたかさを改めて感じた1年間でもありました。子ども一人ひとりを一緒に見つめ、一緒に悩んだり、解決策を考えて下さり、本当に感謝の日々でした。

- ・気づいたことは発信してきたつもりだが、やはり今までの歴史や伝統を考えてしまうと、気づいたことも言えずにいたことが多かったなと振り返ってみて思った。
- ・効率よく仕事をすすめていけると良いと感じた。行事前ギリギリになって必要なものをそろえ始めたりするのではなく、もう少し余裕をもって準備できたら良いと思うことが多かった。
- ・少しでも早く職員が退勤できるように、いろいろ変えてきたと思うが、効率的に仕事ができれば、もう少し改善できるのではないかな…と思う。
- ・その人にしかできない仕事もあるが、もう少し仕事を分担できたら、1人にかかる負担が減るのでは…
- ・退勤時間の改善が難しく感じていて、預かり保育との兼ね合いがあり自分の仕事が終わらない、また帰り辛さを感じることもある。上の先生が残っているのを見ると自分だけが先に帰るのが気になる。ある程度区切りをつけて帰るようにはしているが、全職員がなるべく早く帰れるよう終礼も必要なことをしっかり伝え、効率よく時間を使いたい。  
担任は仕事量も多く大変だとは思いますが、お仕事の練習を時々短い時間でも見てもらえると助かる。自分もなるべく見てあげたいと思っているが、毎日は難しいため分担できると良い。
- ・今年度もコロナのことで、判断が難しかったと思うが、年長だけでも参観を行ってもよかったのでは…と思う。日にちを決め、時間を短くするなどの方法を考えるなど。また令和4年度の参観の時期もコロナが流行っているかもしれないが、少なくなったときをみて、幼稚園の様子を見せてあげたい。母親は少しでもいいので見たいと思う。
- ・Q7について16時と決めていてもなかなかその時間から始められていなかった。まだみんなの中で定着していないのかなと思う。
- ・すべてのことがギリギリになってしまうところがあるので余裕を持って行動できるようにしていきたい。
- ・職員が発信したことや提案したことがその場では決められないのはわかるが、そのまま期間が延びていって、いざその場になって考え出してしまうので判断が遅れたり、多くの時間を取ってしまったたり、どうしていくのかはなしを詰めていく時間が必要だと思う。



- ・ 預かり保育が18時までで、残業時間が18時まででは改善する必要がある。
- ・ 園長先生との面談が1年間なかったので、もう少し話す時間を持ちたい。
- ・ 担任が預かりの外遊びに出してしまうと、2バスの先生は終礼まで自分の仕事をする時間がない。
- ・ 1バスは1バスの先生、2バスは2バスの先生がバスに乗ることで、1バスの先生は仕事をする時間が確保できるようになった。
- ・ 退勤時間の改善についてはやはり難しいなと感じています。しかし、全員が意識することで以前よりは少し早くなったのも確かです。預かりの担当は決まっても18時までには帰り辛い、、上の先生が帰らないと下は帰り辛い、、早く帰りたいけど、仕事が終わらない、、いろいろな理由があると思います。担任も遅くまで残って仕事をしていることが多いです。

仕事量に関しては、暁の星幼稚園の良いやり方は残しながら、簡略化できるところは少し考え工夫していく必要があると感じています。職員が心も身体も健康に働けることが、“良い保育”につながっていくと思うので、来年度は今年度以上に就業についてもみんなで話し合っていきたいです。

- ・ どの時間を省略すると時間を有効に使い、退勤時間も早くなるかと声があがり、退勤時間については変化があったと感じています。(行事等が課題です。)

預かり保育の外遊び、5時半からの預かりの当番も気持ちよく気づき合いながら動いてくれていることに感謝している。

コロナの対応については、国から、県から、市からの対応が色々変わり、感染者…濃厚接触者…の件などの判断に苦しんだ。職員はよく頑張ってくれた。しかし、責任を取るものとして辛い1年だった。

- ・ ちょっとした気づきでも言葉にすることで考えるきっかけとなり、Q7の退勤時間も今までと比べ早く自分の仕事をする事が出来たため改善してよかった点である。終礼での報告内容も少し改めたことで短縮につながっている。暁の星幼稚園だからこそ大切にしているところは変えずに進ながら、少しずつ仕事がスムーズに効率よくみんなが働けるような改善は良いと思う。

一人ひとりが考えや思いを少しずつ言えているように感じるため、より素敵な職場環境、子どもにとっての保育であり続けるよう良い所を継続して行ってほしい。

この1年は特に大切な1年間だったと思う。改めて先生たちや子どもたちのあたたかさを感じ、感謝ができた。自分の子どもを入れたいと思えるほどの保育環境も雰囲気も、魅力がある園。暁の星幼稚園が大好き。これからも素敵な園でありますように。

参考(以下は令和2年度の学校評価です。)

Q1 あなたは祈りと笑顔を心がけて日々を送りましたか。

令和3年度

- 1 はい、いつも 3
- 2 大体いつも 12
- 3 たまに 0
- 4 全く忘れていた 0

1

Q2 Q1で1、2を回答した方は、以前の生活より何か変化がありましたか。

- 1 大いに 2
- 2 多少 10
- 3 少しだけ 3
- 4 あまりない 0

2

・たまに神様が自分のそばにいることを感じる。

Q3 この1年、見つけて、認めて、分かち合うことが以前より増えましたか。

- 1 大いに 4
- 2 多少 10
- 3 少しだけ 1
- 4 あまりない 0

2

- ・担任2年目になり保護者に子どもの様子をこまめに伝え、喜び合うことが増えました。
- ・コロナの影響を受けて、子どもたちにもとまどいがあり、、先生方と分かち合うことは増えてきたと感じます。
- ・今年はコロナ禍ということもあり、行事や日常生活もいつも通り行うことは難しく、“新しいかたち”を先生方と子どもたちと一緒に見つけながら取り組んできました。その中で“見つける”こと“分かち合う”ことは増えたように思います。

Q4 笑顔と祈りが自分を育てていると思うことを自由にかいてください。

- 1 大いに 3
- 2 多少 10
- 3 少しだけ 0
- 4 あまりない 1

1

- ・今年には特にコロナということでいろいろ悩んだりすることが多く、そんな時祈ることで解決はすぐではないけど何かを与えてもらった気がします。考える方向性が見える気がします。
- ・子どもと一緒に成長できること。  
子どもの祈りの内容が時に自分では思いつかないような言葉や内容だからこそ、自分の考えも広がって思考力が育つこと。
- ・子どもたちと関わる中で、笑顔と祈りは毎日大事にしていることです。子どもたちの素直な心や笑顔に触れると自分も温かい気持ちになれます。子どもに学んで自分の気持ちが前向きになれることも多くあります。
- ・3. 11、、、10年前にあった東北の震災について子どもの前で祈ると、自然にマリア様の前で、年少の子どもたちが「あけのほしをじしんからまもってください」と祈る姿があり、祈りが子どもたちの心に残っていることがとても嬉しかったです！  
えがおがえがおにおいつながることは毎日子どもたちを見て分かります。
- ・笑顔でいることにより、私たち大人や子どもも明るい気持ちで過ごせることで、心が前向きになり何事にも挑戦できているように感じます。
- ・笑顔の大切さは、常に子どもたちと接するにあたって与えているだけではなく、逆にこちらが元気をもらい、育てられていると感じる所です。日々、泣いたり笑ったりの生活の中で祈る心を大切に伝えていけるようにしたいと思います。
- ・マスクを必要とする毎日の中で子どもたちに不安を与えることがないよう、笑顔を意識した日々でした。今までと違う日常を安心して過ごせるよう、子どもたちと過ごせる毎日に感謝して日々祈ることで、自分自身も落ち着いて周りを見て、気づきを大切に、そして他の先生方と一緒に分かち合う生活でした。分かち合うことでいろいろな話をして、自分の育ちへ繋がっていったと思います。
- ・先日先生方と話す中で「笑顔は作れるけど、ほほえみは作れない」という話ができました。子どもたちのように、いつも素直な心で祈り、自然なほほえみが溢れる自分でありたいです。子どもたちのかわいい笑顔、あたたかい祈りにいつも心が洗われ、子どもたちから育ててもらっているのを感じます。

<学校評価委員会 総評>

◎「働きやすい職場にするために」の実状はどうか。

→みんなで話し合ったことで意識は変わってきているが、まだ難しい部分がある。

改善されていると思う人とされていないと思う人、半々が現状。

理由は仕事量の問題（退勤時間は遅くなるが、持ち帰りの仕事は多くない）、先輩の先生が帰らないと帰り辛いなどいろいろ考えられる。

↓

↓

○終礼（16：00～）に要する時間はどれぐらいなのか。

→帰りのⅡバスが16：00に戻ってくること、また預かり保育との兼ね合いもありなかなか全員が揃わず、16：00からと決まっても時間通りはじめることが難しい現状。時間は以前に比べ短くなっており、30分から45分くらい。

・毎日しなければならないのか？

（提案1）Ⅰバス、Ⅱバスに分かれての終礼

・それぞれ都合の良い時間帯に集まって今日の子どもの様子などを共有する  
（先生たちが取りやすい時間で行うほうが、

より自分の問題として考えられるのではないか。）

↓

・ⅠバスⅡバスそれぞれのリーダーが園長、主任に報告する

そういう日を作ることで、個々の作業の効率化が図れるのではないか。

また先生たちもグループが小さいほうが話しやすいこともある。

全体に「どうですか？」と投げかけると考える時間（待つ時間）が長くなってしま  
うので、個別で話し合い、持ち寄り、まとめて話すこともいいのではないか。

すぐにすべてを変えるのではなく週に1回くらいからはじめてみてはどうか。

せっかくの問題提起をそのままにしないほうがいい。改善されていないと感じる人  
がいるなら、何か手立てするべき。

（提案2）一人一人の予定が見えるようにする、自分の予定を週のはじめに発表するなど、  
退勤しやすい環境を作る。（予定が見えると動きやすい）

(提案3) 漠然と話し合いをするのではなく、すぐ解決しなければならない問題、長期間で考えていく問題、問題の大小に応じて話し合いの態勢を考える。

○預かり保育の仕事を職員はどう認識しているか。

業務の一環として捉えているのか、ボランティアとして捉えているのかでも大きく違う。預かりのために雇うということも考えられる。

○産休・育休後も担任が持てるようなシステムを作っていくべき。

◎コロナ対応

→コロナの影響でなかなか行事や参観ができなかったこともあり、今年度は保護者の方に園や園生活、モンテッソーリ教育について知りたいこと、また困っていることや悩んでいることなど、なんでも書いて頂けるようにアンケートを行った。その答えは園だよりやホームページで発信していく予定。

→今年の年長児はコロナの影響でいろいろなことを経験できていないため、今年はなるべく行事も行い、園をひらいていきたい。

(提案)

- ・コロナで特に園生活が見えづらい、、、「こんなことまで」と思うぐらい発信してちょうどいい。
- ・新任の先生の紹介やクラスにどの先生が入っているのか(担任以外で)、行事の担当の先生、実習の先生の紹介があるとより安心して子どもを預けられる。
- ・小学校は給食の様子など毎日メールやホームページで発信される。もう少しホームページの発信の頻度をあげたほうがいい。
- ・園に行けない分、写真を増やしたり、動画などを見ることができると嬉しい。

○コロナ対応について

- ・「学校薬剤師会」に登録しておくことで困っていることは聞くことができ、アドバイスがもらえる。相談もできる。
- ・行事の際の検温は、事前に用紙を配って当日の朝の体温を書いて来てもらおうといい。その後記録として保管しておく。